

# 石巻市環境基本計画の令和6年度実績の点検・評価について

## はじめに

石巻市環境審議会は、令和7年5月の市長からの諮問に応じ、石巻市環境基本計画の令和6年度の目標達成状況及びリーディング・プロジェクトの進行状況について点検・評価を実施した。

今回は、平成28年度に策定された石巻環境基本計画に基づく9回目の実施であり、点検・評価に当たっては、次の項目について関係部署等から資料の提供を求め、審議した。

その結果について、以下に示す。

- I 環境目標と環境指標（数値目標）の令和6年度実績
- II リーディング・プロジェクトの進捗状況
- III 石巻市環境基本計画の令和6年度実績点検・評価

## I 環境目標と環境指標（数値目標）の令和6年度実績

### 1 総合評価

令和6年度については、複数の指標をまとめて評価することにより個別評価は行わないこととした3指標及び評価をしないこととした7指標を除く35指標について点検し、5段階評価を実施した。前年度と比較して評価5は4増の18項目、評価4は3減の3項目、評価3は2減の10項目、評価2は1増の4項目であった。評価1の項目は無い。

評価	R6	R5	増減
5	18	14	+4
4	3	6	-3
3	10	12	-2
2	4	3	+1
1	0	0	0
評価無し	10	10	0
計	45	45	-

評価5が増えたことは、評価全体が向上したといえる。分野ごとの評価に対する意見は以下で考察する。

なお、複数の指標をまとめて評価することにより個別評価は行わないこととした3指標は、同一事業の複数の成果をそれぞれ指標としていたものである。また、評価しないこととした7指標は、市の取組が実績の数値に反映されづらいもの、目標達成済みのもの、今後も実績値が変動しないと見込まれるものである。

## 2 分野ごとの評価に対する意見等

### (1) 多様な自然との共生

#### ① 自然環境

「多くの自然や生物に恵まれている」といった自然環境の満足度は、68.2%と前年度同様目標を達成しているが、2年連続でポイント減となっている。

「森林面積」は、前年度比 50ha の減ではあるが、ほぼ現状維持である。引き続き、補助制度等を活用して森林の適正管理に努められたい。

「農用地面積」は、前年度比 50ha 減ではあるが、目標は達成している。水田の大区画（50a 以上）の整備率が県内一であり、担い手となる事業者への農地の集積が進んでいるなど、先進的な取組が進められており、今後の進展に期待したい。

「松くい虫対策事業による伐倒駆除率」は、前年度比 27.4 ポイント減の 71.9%であり、目標を達成していない。補助金の減額により伐倒処理材積量は減ったが、特別防除（薬剤の空中散布）は前年度と同規模で実施されている。今後の松林保全の進展に期待したい。

「ニホンジカ捕獲数」は、前年度比 13 頭減の 2,457 頭であるが、目標は達成している。捕獲圧の継続により生息密度の低下が進んだためと思われる。引き続き、捕獲効率の向上と捕獲圧の維持に努められたい。

「間伐事業整備面積（国有林を除く）」は、前年度比 201ha 増の 618ha であり、目標を達成している。民間事業者により実施された間伐も前年度より増加している。引き続き、計画的な森林整備に努められたい。

#### ② 都市環境

「公園などの緑が豊かだ」といった都市環境の満足度は、前年度と同じ 52.7%であり目標を達成している。しかしながら、委員からは、市民アンケートにおける「緑を楽しむ暮らしをしている」の回答比率 36.3%との乖離が気になるとの意見があった。市民が緑に触れることができる環境づくりが必要なのではないかと。

「1人当たりの都市公園面積」は、公園の整備が進んだことから 16.1㎡となり、目標を達成している。人口減少が進む中では、都市公園の全体面積が同じでも「1人当たりの都市公園面積」は増加することになるので、今後は幅広い世代に親しまれ、多くの人が利用しやすいような公園整備を進められたい。

#### ③ 地域景観

「農地の緑が豊かだ」といった田園風景の満足度は、前年度比 0.5 ポイント増の 72.7%であり、目標を達成している。農業振興と景観保全が両立するような施策を展開するとともに、市民への情報発信に努められたい。

「自然や文化、歴史などと調和した街並みが美しい」といった都市景観の満足度は、前年度比 4.8 ポイント増の 26.6%であり、目標を達成していない。委員からは市民が街並みの美しいエリアを具体的にイメージできないのではとの指摘があった。中心市街地での石巻らしい街並みの形成が必要ではないかと。

## (2) 環境負荷の低減

### ① 大気環境

「空気がきれいだ」といった大気環境の満足度は、前年度比 0.6 ポイント減の 58.6%であり、目標を達成していない。委員からは、市民は臭いに敏感であるとともに杉花粉の問題なども空気のきれいさと結び付けて考えるとの指摘があった。引き続き、環境基準の達成状況等について、市民への周知に努められたい。

「大気環境に係る苦情処理割合」は、令和 6 年度中に発生した苦情について 100% 処理できており、目標を達成している。引き続き、適切、迅速な処理に努められたい。

「航空機騒音の環境基準達成率」は、100%であり目標を達成している。委員からは、普段から騒音に悩まされているので環境基準が達成されていても感情的には納得できないとの意見があった。引き続き航空機騒音対策協議会による関係機関への航空機騒音低減の要望の実施などの対応を進められたい。

「自動車騒音の環境基準達成率（測定箇所平均達成率）」は、100%であり目標を達成している。委員からは、市民アンケートにバイク騒音に関する記述があったことが指摘されている。自動車等の道路での走行音への苦情については、警察などの関係機関と連携して対応されたい。

「EVの導入台数」は、令和 6 年度は 1 台追加され累計で 15 台の導入となっており、目標を達成している。市としては令和 8 年度以降の導入は未定とのことであるが、今後は民間も含めた市全体での普及・啓発について検討されたい。

### ② 水環境

「河川の水がきれいだ」といった水環境の満足度は、前年度比 3.4 ポイント増の 38.9%であるが、目標は達成していない。河川の水質が環境基準を達成していることとアンケートの結果が乖離している。環境フェアなどのイベントや市報により水環境の健全性を伝えるなど、周知に努められたい。

「海の水がきれいだ」といった水環境の満足度は、前年度比 1.9 ポイント増の 39.9%であり、0.1 ポイントの僅かな差で目標には達しなかった。委員からは、長浜のカキ殻問題を例に挙げ浜辺の環境保全に努めるべきとの指摘があった。県などの関係機関と連携した対応の強化に努められたい。

「河川における BOD の環境基準達成率（達成箇所数）」は、前年度同様 7 箇所中 7 箇所であり、目標を達成している。委員からは農業用水路など生活に身近な水路での臭気などへの対応を求める意見があったので、対応に努められたい。

「海域における COD の環境基準達成率（達成箇所数）」は、20 箇所中 12 箇所と、前年度比 2 箇所増となり、目標を達成している。市民による海岸清掃の様々な取組も行われており、市民の海の環境全般への理解は進んできているとは思われるが、引き続き、啓発に努められたい。

「下水道処理区域の水洗化率」は、前年度比 1.18 ポイント減の 77.6%であり、目標は達成していない。「下水道処理区域の水洗化率」の減少は、分母である供用開始地区人口の減少よりも分子である同地区での水洗化人口の減少が大きいことによるものとのことであり、ここにも人口減少の影響が出ている。引き続き、供用開始地区への対応に努められたい。

### ③ その他の環境負荷

「ダイオキシン類（大気）に係る環境基準達成率」は、前年度と同じく目標を達成している。委員からは、市民の野焼きの影響を気にする意見があった。引き続き、監視と指導に努められたい。

## (3) 循環型社会の構築

### ① 廃棄物

「一般廃棄物の埋立処分量」は、前年度比 1,569 t 増の 5,964 t で、目標を達成していない。焼却施設・し尿処理施設から排出された残渣の受入量の定期的な変動によるものであることは理解するが、数値の算出方法を含め新しい環境基本計画での点検評価の手法について検討されたい。

「1日1人当たりの生活系ごみ排出量」は、前年度比 15 g 減の 691 g であり、目標を達成している。引き続き、ごみ減量化・資源化の周知啓発活動に努められたい。

### ② リサイクル

「リサイクル率」は、前年比 1.1 ポイント増の 11.1% であり、目標を達成していない。ごみの総量の減少自体は喜ばしいことではあるが、熔融スラグの利用の変動に左右されていることは好ましくはない。令和 8 年 10 月からのプラスチックごみ分別回収開始に向けた周知の徹底と、啓発活動の強化に努められたい。

「収集・直接搬入による資源化量」は、前年度比 372 t 増の 5,290 t で、目標を達成している。熔融スラグの利用増によるものとのことではあるが、目標を達成したことは評価する。

「集団回収による資源化量」、「再生資源集団回収報奨金交付団体数」、「資源回収実施団体による実施回数」は、いずれも減少。大規模小売店舗での資源物回収の影響も考えられるが、抜本的な取組の見直しが必要と考える。

## (4) 脱炭素社会の実現

### ① 地球温暖化

「市域の二酸化炭素排出量」は、前年度比 5 千 t-CO<sub>2</sub> 減の 1,109 千 t-CO<sub>2</sub> で、目標を達成していない。排出量（令和 4 年度値）が減少しなかった理由として、コロナ禍が落ち着いたことによる家庭部門・運輸部門での排出量の増加が考えられるとのことである。目標の達成は厳しいものがあるが、今後も排出量削減に向けた普及・啓発を推進されたい。

「地球温暖化防止に関する普及啓発事業の実施回数」は、前年度比 1 回増の 3 回であり、目標を達成していない。あらゆる機会を捉えた、積極的な取組が必要である。

「雨水利用タンク普及促進事業補助金交付件数」は、前年度比 13 件増の累計 292 件であるが、計画期間内での目標達成は難しい。雨水タンクそのものの周知不足があるのではないかと。令和 7 年度で事業終了とのことではあるが、令和 4 年度以降に申請が低迷した要因の検証を実施されたい。

## ② エネルギー

「太陽光発電システム年間発電量（補助対象分累計）」は前年度比 651 千 kWh 増の 22,853 千 kWh、「太陽光発電システム補助件数」は前年度比 103 件増の 4,440 件となったが、いずれも計画期間内での目標達成は難しい。一部の自治体では中小規模の新築住宅への太陽光発電システム設置の義務化が実施されていることもあり、補助事業の全体的な見直しが必要だと考える。

「蓄電池補助件数」は、前年度比 144 件増の 1,279 件（累計）で、目標を達成している。引き続き推進されたい。

「HEMS（家庭用エネルギー管理システム）補助件数」は、前年度比 25 件増の 574 件（累計）であるが、計画期間内での目標達成は難しい。HEMS そのものの周知不足があると考えられるので、周知に努められたい。

## (5) 環境市民の育成

### ① 環境教育

「環境市民育成講座受講者数」は、前年度比 10 人増の 102 人であり、目標を達成している。受講者の感想の紹介など、次年度以降の市民の参加意欲を高める手法も検討されたい。

「こどもエコクラブの加入グループ数」は、前年度と同じ 6 団体で、計画期間内での目標達成は難しい。少子化が進展する中、従来の手法を続けていても対応できない。次世代の育成は重要なので、取組そのものの抜本的な見直しが必要ではないか。

### ② 環境保全活動

「花いっぱい運動参加団体数」は前年度比 2 団体増の 145 団体であり、目標まであと少しとなった。若い年代が参加できるような工夫にも努められたい。

## II リーディング・プロジェクトの進捗状況

### 1 生物多様性地域戦略推進事業

環境市民講座の取組は評価できるが、自然環境の保護・保全の取組が少ない印象を受ける。取り組むべき事業は多岐にわたるが、未だ具体的な取組事例が乏しい。取り組むべき事業計画（事業目標、達成度の設定を含む）を絞り込み、きちんと明示した上で、点検評価を行っていくことが必要である。

### 2 航空機騒音対策事業

令和5年度から評価対象から除外している。

### 3 ごみ減量化推進事業

「1日1人当たりの生活系ごみ排出量」、「収集・直接搬入による資源化量」は目標を達成しているが、「一般廃棄物の埋立処分量」、「リサイクル率」は目標を達成していない。

また、プラスチックごみの分別収集に向けて中間処理業者の選定まで進んだことは評価するが、プラスチックごみの分別収集開始は令和8年10月からであり、未だ準備段階にある。

未達成の目標を達成するため、より一層の普及啓発に努めるとともに、プラスチックごみの分別収集に向け、住民説明会や出前講座を実施されたい。

### 4 再生可能エネルギー導入推進事業

太陽光発電システム、蓄電池システム、HEMSの各補助事業については、蓄電池システムは目標を達成したものの、太陽光発電システムとHEMSは計画期間内での目標達成は難しい状況にある。これは、人口と新規住宅着工件数の減少による影響と推測され、今後もこの流れは続くものと思われる。新築住宅への太陽光発電システム設置が義務化の方向にあることなども考え合わせると、既存住宅への設置補助を厚くするなどの新たな取組が必要ではないか。

また、事業者向けの対応・補助についても検討が必要と考える。新環境基本計画では、地域の将来像の実現に向け、施策を抜本的に見直されたい。

### 5 環境教育モデル形成事業

環境教育モデル形成事業が実質的に着手されることのないままに計画期間が終了することは残念であるが、環境フェアでの公開講座が好評を博していることは大きな成果といえる。新環境基本計画では、環境教育基本方針に基づき、具体的な事業が展開されることを期待する。